





書

道

子

子



子

萬世千紅序

蘇以滑稽探毫必有林之東坡老人翰林為
一蜀山先生編并為之似之人物之身之千鳥梳子
非之胸中之事之醉時吐出之果如之紅梅紫
葉之報紙上之海之入之入之入之入之入之入之
國之也却之也之也之也之也之也之也之也之也
縁之也之也之也之也之也之也之也之也之也之也
終中相詩之唐宋の法

と申す書物の海を以て種々煉りてて搦りて一人
千杵堅く申す白のありて搦りてて京製の細紙
の箱墨を以てて狂ひに美事古今一の烟煤黒磨
を以てて以て夏中よく其道をまじりてて
光澤ありと活眼大快の達磨形今紙を打碎りて
児輩もよろこぶ達磨折りてて海に投りてて
木端の搦りてておとててててててててててて

三

片紙隻字も悉く珠珠麝香ありててててててて
つとててて知るるるるる縮林の流るるるるる
来一歩へ歩くとてててててててててててて
恰申すのれ場ありててててててててててて
を以てててててててててててててててて
其のまじりててててててててててててて
たてててててててててててててててて

Handwritten cursive text in a rectangular frame on the right page. The text is written vertically from right to left. It includes characters such as 梅 (plum) and 松 (pine), and appears to be a calligraphic exercise or a short piece of poetry.

Handwritten cursive text in a rectangular frame on the left page. The text is written vertically from right to left. It includes characters such as 文鳳 (Wen Feng) and 玉梅 (Yu Mei), and appears to be a calligraphic exercise or a short piece of poetry.

文鳳如丹月玉梅似玉山昨夜十軒店

中林庵見玉梅文鳳二女史玉梅
善画文鳳善詩乃善三月

見此二人顔

上野志

此の事ハ本一ノ事ナリ

櫻井和記

入石の事ハ本一ノ事ナリ

此の事ハ本一ノ事ナリ

柳の葉と蜘蛛の糸の給に

此の事ハ本一ノ事ナリ

三

舟の事ハ本一ノ事ナリ

櫻井和記

此の事ハ本一ノ事ナリ

此の事ハ本一ノ事ナリ

鶯の事

此の事ハ本一ノ事ナリ

此の事ハ本一ノ事ナリ

櫻井和記

此の事ハ本一ノ事ナリ

羨のうらみよちかへりて

待郭公

わかれの春もよひくものなげ
りくしのこころはなほ

英一峰のあうけるを并栗の舞

かゝ獅子の舞りあはれり
手は舞ひのうたを

早乙女の画

早乙女の睡りかきし仙人と

④

通を夫と云ふて

鳥直丁馬馬七寝毒河

こゝろ 柳葉二年栞八月
のしきし十七の世と
矩とこゝろびんら
人生七十古来ま
四十年来のむし
七のむし
八葉で

よ方力の七里けんゝよふさつけどあゝと
きこりてむらぬ樹ちん七傳七初言天升
七代七の社七賢七史七福升七照夜あれお江
戸七代七誘誘接の事い浦島七七廿の孫考平
とご五十一の値七千万年除勒の出と生つた
鳴呼つていゝもあは

七生と力車よとくま

身 馬 馬 の 〇

花火

あつらふ花火のついでにさかあつ
らむに花火のついでにさかあつ

花の作の画に七代中

雪の梅の画に
つゆらふ花のついでにさかあつ

雪の梅の画に

あつらふ花火のついでにさかあつ
らむに花火のついでにさかあつ

雨のねの画九

少海に日本に於ては
 ありの如くは

花子の心

ふくむる心は
 こころをいかに

こころをいかに

酒の第一が
 こころをいかに

平家の集序

胸中よ美しきものを
 観中よ天下の青山水
 のほとりには
 ともよむる心は
 のまをよまが
 格子籠の
 程官少将と
 あり上よん
 一は倡優隸卒

紺色所一丸の屏風を職人等の繪す
其判の門よりかきけり

水桶の目よりかきけり
あしおりのしゆりかきけり

研師

三尺のしゆりかきけり
田百餘人
のしゆりかきけり

塗師

のしゆりかきけり

(九)

山のしゆりかきけり

具足師

太正の御代よりかきけり

かきけりの具足師よりかきけり

十月十六日唐名橋海大人十三面を

かきけり
から十三のしゆりかきけり

留師

阿保親王みづく目のしゆりかきけり

~~~~~川原と~~~~~が~~~~~

路を~~~~~

~~~~~梅川~~~~~青柳~~~~~

~~~~~~~~~~

採蓮女の画也

蓮の葉子~~~~~

~~~~~解~~~~~

~~~~~月~~~~~

~~~~~柳~~~~~

⑩

あ~~~~~

軒端の萩乃指打~~~~~基也

立君の讚

~~~~~の~~~~~

首飾乃跣ち~~~~~

首飾の~~~~~

~~~~~馬文耕が

待宵侍従

美事の心算の事
しるす事申すに申すの事

伏業の事

拙者もこの事にて申す事
に申す事申すに申すの事

三月廿五日午の刻向徳の事

書付候の事申すに申すの事

三日申す事申すに申すの事

算帳の事申すに申すの事

しるす事申すに申すの事

書付候事

拙者もこの事にて申す事

しるす事申すに申すの事

如事の事申すに申すの事

拙者も申すに申すの事

かゝる事申すに申すの事

しるす事申すに申すの事

研す事申すに申すの事

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、

婿捨山

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、
 十一、
 十二、
 十三、
 十四、
 十五、
 十六、
 十七、
 十八、
 十九、
 二十、

慈山人

Handwritten text in a cursive script, likely a title or introductory line.

Main body of handwritten text in a cursive script, consisting of several lines.

Handwritten text, possibly a section header or a specific note within the main text.

Main body of handwritten text in a cursive script, continuing the previous lines.

Handwritten text, possibly a section header or a specific note within the main text.

Main body of handwritten text in a cursive script, concluding the page's content.

燕斜

Main body of handwritten text in a cursive script on the left page, enclosed in a rectangular border.

Handwritten Japanese text in cursive style, likely a poem or a short story. The text is arranged in vertical columns from right to left. The characters are fluid and connected, characteristic of the 'sōsho' style.

左幅對の画讚
左日の出子川水

④

日...
...川水

中巻

翁渡三番史用清一二松請看千
早振神其容

五月子濕

月夕酒...
...山

樵子漁童乃画賛

正しく東籬も花壇も市軒も沙汰も
存料の十玉の秘をもつて十念の和
尚と多うあつて又あつて
幽意まよふの涯もつて
富の青竹もつて
鈴年竹の末末徳と未受と
非は月も頓減と
さしつて竹と
さしつて竹と

(共)

君風名の概々燭風をきつて
志者珍酒畑を極

此らうへ外へはらう湯の畑も
あつて側もあつて畑

連帳

日のぼる月のぼる
あつて甲もあつて

壬辰月十五日雪ふる

あつて雪一二交もあつて

Handwritten cursive script, likely a poem or prose passage, consisting of several vertical lines of characters.

淨氏繪

Handwritten cursive script, continuing the text from the previous page.

羊

牛

Handwritten cursive script, likely a signature or a specific character.

(十)

Handwritten cursive script, likely a signature or a specific character.

劉季德翼羽張飛の圖

桃園

梅

新秋

Handwritten cursive script, likely a signature or a specific character.

Handwritten cursive script, likely a signature or a specific character.

早

Handwritten cursive script, likely a signature or a specific character.

~~~~~

上元の如雲々々月

正月も半分の心——月

穉豆腐子雪水小ね茶

羊田稲荷

羊田稲荷大明神跡に葛西全町渡麻

疹疱瘡共々恙信心堅固息災身

ソ多しやま命如の堂瘡毒堂

~~~~~

(六)

似蝶両半道中の画子

~~~~~

~~~~~

六野六甲

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

松峯の抱一松峯の  
靴所雪の毛の金  
靴所  
靴所

梅

回踏の桃  
一松峯の梅

西瓜

西瓜の皮は  
丸

西瓜の皮は丸

丸の皮は丸の皮は丸  
丸の皮は丸の皮は丸

丸の皮は丸の皮は丸  
丸の皮は丸の皮は丸

十八羅漢圖

大明の西  
羅漢の圖と画  
下の舞の偈頌あり

ちう面をくもみんまゝに片年まゝに  
 ころころあまのさ苗のあつてまづ一掃を  
 うらみげくくくく天竺の子どもは  
 の遊就之時ころころとまゝに  
 師の心刀のこころのまじりあふ二九の  
 羅浮や〜 賽一休羅山人和苗  
 まよひま〜 八甲は〜  
 ちうらも〜 流り〜  
 四甲四方大津瀬の後ま〜

三

八甲羊九甲の焼り  
 ぼや七日半天竺の心と  
 天神のま〜 半のま〜  
 まぶ〜 通〜 志と〜  
 回〜 通法の心と〜  
 花を〜 心と〜  
 の〜 海と〜  
 上方の思よ〜  
 海邊網のま〜



三井寺の清くしあけし一年の  
 春の雨の寂滅の果  
 三井寺の清くしあけし一年の  
 春の雨の寂滅の果

近江八景  
 雲の影

三井寺の清くしあけし一年の  
 春の雨の寂滅の果

三井寺

三井寺の清くしあけし一年の  
 春の雨の寂滅の果

三井寺

三井寺の清くしあけし一年の  
 春の雨の寂滅の果

志多きおりふがれの天気より  
あはれのおゆき 春のつゆ

矢持の帆

まは帆のうきはまき穂のまはら  
あはれおゆき 春のつゆ

石山秋月

しづかき石山まはげん  
しづかき石山まはげん  
しづかき石山まはげん

望田後

お風とつゆき音はくき  
うきおゆき 春のつゆ

比良美雪

山かきおゆき 春のつゆ  
しづかき石山まはげん

新六歌仙圖

二位、黄門後京極西行道鎮俊  
成卿新六歌仙歌六首恨無小  
野小町名



平の文とてくく日下部景の學考と建仁  
寺堂の筆とてくく一馬士とてくく初とてくく  
くくく粉雪とてくくくくくくの筆とてくく  
くくく知とてくくくく一馬とてくくくく者工  
くくくくくくくくくくの南とてくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくく  
古の筆とてくくくくくくくくくくくく

(廿七)

くくくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくく  
四十とてくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくく  
あ

何れとてくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくく  
入毎とてくくくくくくくくくくくく

夏とくらしに 劍 麦 酒

萩寺

~~~~~の萩のき~~~~か~~~~けを  
伏猪の牙~~~~と~~~~大 小

~~~~~の別荘に根着~~~~  
~~~~~の日に~~~~  
夕日~~~~の根~~~~西陣~~~~
~~~~~の萩の~~~~

萩寺~~~~

(五)

~~~~~の~~~~  
~~~~~の~~~~  
~~~~~の~~~~

~~~~~の~~~~  
~~~~~の~~~~  
~~~~~の~~~~

~~~~~の~~~~  
~~~~~の~~~~  
~~~~~の~~~~

かしら〜の木の〜
 飯櫃と〜
 う〜の中〜と〜
 ち〜の〜次
 村母探函跡か〜梅の園に
 う〜の〜探函が〜か
 梅と〜
 法寺庵刹整と〜
 あ〜の〜の〜

東伴一町ヤ〜の市人

東豊山十五景

赤き〜の〜目白不〜
 山〜の〜再昌院法下の〜園上の踏後
 庄〜の〜
 田面子〜
 一〜

種田後月

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

田舎稲

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

寺家紅楓

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

田中一合楸

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

江村飛雪

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

寺家梵宇

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~


赤城まき色

新夕のまき色は
まき色のまき色は

高田叢祠

高田のまき色は
穴八幡のまき色は

濟村陸蟹

濟村寺祖人のまき色は
まき色のまき色は

田乃一跡

横子由の蟹のまき色は
通子門田のまき色は

岩畔沼境

岩のまき色は
羽筋のまき色は

堰口水碓

水車
人目

あいにしきし唐のま

裡圖

陰囊ハ墨敷腹鼓一挺、弓文武火
茶釜其名世上呼

あふまひびるまのりあひまひ
あふ画子

似蝶のあふまひのりあひまひ
あふ干籠子あふまひあふ
焼絡子あふまひあふまひ

(五)

輪子あふまひのりあひまひ
あふまひあふまひあふまひ

蓬萊言子あふまひの類

あふまひのりあひまひあふまひ
あふまひあふまひあふまひ

あふまひあふまひあふまひ
あふまひあふまひあふまひ
あふまひあふまひあふまひ

昔者... 稀人...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

和標園見字韻

誰道東方九千歲
 竊桃三度世
 中遊功名已
 在金錢擲
 日月徒隨
 質物流
 枯梗
 碎紋
 看瓦入
 標

聖

園言葉學狂
 稠先生寤惚
 噓臍
 久未到
 毛庚
 四百
 分

原詩

寧蜀山人寤惚子
 標園狂生

先生趣似東方朔
 玩世年來面
 白遊一段
 棲嫌酒疑
 浴百篇
 狂詠筆
 少流近鄉
 在町
 閑同起
 遠國波
 濤結社
 稠打犬
 兒童知
 寐惚名
 高六十
 有餘州

此
 大
 武義野

親
 子
 額
 繪
 唐
 晴
 景

本所薬店太中菴のみくらぶ
 正銘 のくらぶ本所一丁目
 のくらぶ中菴のみ薬
 菴

酒とのま酒酌の、かみぎら
 かみよらふの科理菴
 水よらふの里よらふ
 羽白のよらふ
 法西八市の酒

(三)

八市ハ市午のきらぶ
 流球のよらふ

神田系

九月明神、祭外^{ツト}神田^{ヨリ}至^ル内^{ウチ}神
 田^ニ栴^ニ交^ニ兩^ニ側^ニめ^ニ心^ニ並^ビ蠟^ニ燭^ニ金^ニ屏^ニ光^ニ
 照^ス纏^ラ

法田川の圖

法田川
 法田川の圖

花女志事が竹の園

川竹の心はさびしきあはれ

青馬とに猿の心はさびしき

かけりぶらぶらの心はさびしき

ま画今もく百川橋下八橋

茶八の心書六法五十七言

花女志事同百川の心

(三)

弘文学士の史記より本朝の

故事より聯句より大和七

言城より松本二巻より千巻

より昔年より

及古より書つ

擬大和七言城

源順方圓臨水面 蒼波数則最中秋

菅三是 否疑花色 白菊立乎吹上洲

神席首丘 孤自斃 雞林航海 鵲難求

陽春供^葉屠^蘓散
時雨^山深^{紅葉}積
昔^胃河^内通^情淺
妓^女妓^王人^作佛^下
羅^生門^氣梳^新柳^下

篇^序成^歌題^曲流
沖^津浪^立綠^林稠
今^様駿^河舞^手柔
賴^光賴^信鬼^為鱒^下
末^摘花^香珠^古裘^下

富士

ふじの山あはれ
ふじの山あはれ
ふじの山あはれ

鎌倉四尊寺什宝佛牙の舍利

(三六)

ふじの山あはれ
ふじの山あはれ
ふじの山あはれ

中村芝翫の
ふじの山あはれ

ふじの山あはれ
ふじの山あはれ
ふじの山あはれ

浦島太郎の歌

ふじの山あはれ
ふじの山あはれ
ふじの山あはれ

Handwritten Mongolian script in vertical columns. The text consists of approximately 12 lines of cursive script.

Small vertical label or signature located on the left side of the page.

Handwritten Mongolian script in vertical columns. This section contains approximately 10 lines of text.

Handwritten label or signature located between the two columns of text.

Handwritten Mongolian script in vertical columns. This section contains approximately 10 lines of text.

天の宮の御座り

名もつと鐘舎の御座り
御座り先づの御座り

大徳画の御座り

雪井の御座り
天の宮の御座り

福寿州の御座り

花の生福海波松園
え日の御座り

子々孫々の御座り

文化の御座り

御座りの御座り

御座り

極楽の御座り

目の御座り

御座りの御座り

御座りの御座り

御座りの御座り

江口遊女素子の繪
定家今月とてお繪

十あまのしづめの月
あつしづめの子づゑの中
細言

本授所和月とてお繪
法師のしづめ梅の福書料とて

其風のしづめ梅の福書料とて
梅のま枝り花とてお繪

岩井杜若のしづめ
杜若一かたのしづめ
若とてお繪

江口遊女素子の繪

江口遊女素子の繪
江口遊女素子の繪
江口遊女素子の繪
江口遊女素子の繪

江口遊女素子の繪
江口遊女素子の繪
江口遊女素子の繪
江口遊女素子の繪

世の世の

字

小判六十目

相の世の世の月の世の

結世の相場

四二

世の世の世の世の

時 不仕休

子下りの世の世の海波の

世の世の世の

月日

うねの世の世の世の世の世の世の

ありあり

新五字

青

莖瓶の長の糸の組子所
からくもくはくはくはくは

黄

金屏風葉の糸の許度
からくはくはくはくはく

赤

上玉の糸の組子所

三三

いかにくはくはくはくは

白

六羽の糸の組子所

ゆかにくはくはくはくは

黒

糸の組子所
からくはくはくはくは

田信の糸の組子所
からくはくはくはくは

醉
由

鐘馗捉鬼圖

笛
大

漢子市

漢
矢

漢子市

由

破魔弓の圖

由

由

似

似

け

由

生美の審其の何ハ

~~~~~

禄分

~~~~~

子秋万 家 以 其 一 千 九

己 下 谷 中 内 一 〇

支 持 一 年 以 上 一 千 九

〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇

~~~~~

題滑川園

鎌倉青砥左心共滑川清

何一事一文惜長傳百損名

孔明

孔明の羽根の扇の綸中

~~~~~

おのころの


~~~~~

阮籍

短冊の~~~~~

~~~~~

劉伶

七夕の~~~~~

~~~~~

向秀

~~~~~

~~~~~

上清

璞玉の~~~~~

~~~~~

阮咸

天沼の~~~~~

~~~~~

王戎

~~~~~

~~~~~

昔より酒を好むは人の性なり

### 飲酒法令

酒の量

- 一 年俵認儀を以て
- 一 殊に多量を以て
- 一 有るべきは
- 一 月事としての興を以て
- 一 二日酔の醒と解を以て

此の外群飲は遊藝やお祭り終り  
 飲を禁むる事諒みいしくお祭り終りの松子酒  
 の酒を控へてお祭り終り下心控へて  
 とも會飲を以てお祭り終り  
 とし鹿猿アサギ

### 火とり方

火の五行の一月の民生一日もかかると  
 火のあつたは災いあり  
 火のいぢらぐは天火の候

人火つていふまゝに袴を轉  
 漕へしむの徳と申すは折  
 が五卷元の失火をかくるま  
 りなせの秘文あり毎糸年  
 一編あり  
 家内安全火用心  
 此の書は  
 三巻あり  
 那波の書と申すは天守

四九

冊にのりかきかき  
 一冊あり  
 此の書の浦の書  
 一冊あり  
 一冊あり  
 一冊あり  
 一冊あり  
 一冊あり

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

辛

達摩画賛

南天竺の苦行達摩より西へ来りて  
梁の武帝より信じて一州民の膏血を乞はりて  
堂塔伽藍を造りて法を説きて善功徳を成じりて  
少林のりりかたてて面壁九年を安んずりて  
不立文字といひて一切經の教をこみりて  
末にありてついでにわたりてついでにわたりて  
藤級のありてついでにわたりてついでにわたりて  
五七言の偈を唱へてついでにわたりてついでにわたりて

~~~~~の雪ちりちりのけしき  
の枝子定ちりちりき瘡瘡る年の不倒おぢ
ちりちり流涙ちりちりちりちり又白服の
~~~~~

大いなる日ねの堂のちりちり  
鬼の肉とちりちり

門ねの枝子ちりちりちりちり  
ちりちりちりちりちりちり

萬葉千紅草

(法一)

~~~~~の雪ちりちりのけしき  
千紅の枝子の編入ちりちり先生ちりちり
~~~~~ちりちりちりちりちりちり  
~~~~~ちりちりちりちりちりちり  
~~~~~ちりちりちりちりちりちり  
~~~~~ちりちりちりちりちりちり


ふま真一の思ふまゝに書かれたる
新編の書と採り

文化十書

のけい

のしん

江都書林衆星閣藏板目錄
編者 平川武丁
書物問屋 角丸屋甚助

金匱要略輯義
法眼多紀先生著
全十冊

掌中詩學筌蹄
小林順信卿著
折本 一冊

公書抄学の人は必しこれを知るべし
法眼多紀先生著
全十冊

孔氏系譜全圖
露木直信撰
一枚

孔氏の始祖黄帝より至る一冊の徳の嫡家歴代行を公侯封侯とて今もたゞる
とて支流の孫賢達の人々の傳記なりとて孔氏一家の系図なるものあり

十七帖
弘文館原本
晋王羲之書
王羲之の書十七帖紙本一とす

作文率 北山先生著 古今の文章の是非を論じ出づるの例を
文用例證 全四冊 文章を学ぶに用ひし捷徑の書なり

狂詩碎錦 六樹園先生著 小本 全二冊
狂詩の用多し捷徑なるをあげて平仄を附せぬ人の書なり

杏園詩集 蜀山先生著 近刻 聖道辨物 冢田先生著 全二冊
久松長政の撰詩集なり

同 文集 右同 入官第一義 右同 全一冊

新撰基經大全 秋山仙朴著 全三冊 滑川談 右同 全一冊

氏家徳法度 全一冊 増徒然集 徳 大本 四冊
小本 四冊

庭訓往來捷注 駒籠先生著 全一冊

古杖揃捷注 近刻 左所注の如く素義独学志しちるの書なり

實語教捷注 近刻 右所注の如く素義独学志しちるの書なり

同 證注 右所注の如く素義独学志しちるの書なり

寺沢凡月往来 全一冊 流算法點竄指南 梅田 西先生 全三冊

女今川綾糸 全一冊 増補塵劫記 全一冊

女今川綾糸 全一冊

女今川綾糸 全一冊

女今川綾糸 全一冊

俳諧田た日ひ 桃隣先生著 小本一冊

桃隣句選七卷集 中本 一冊

此は四季の季書をあひ季古今の句を
集季の存録の注解を加へるものなり

くむ成爲更神紀 全一冊

俳諧四季名々勢

鐘開齋老人著 寸珍懐中 全一冊

四季歌号うたのく 秋野狐この 一陽齋芳祇先生著 中本二冊

あつとつもそつらく歌いあひふさうまきつひてあそびほしく
るさつとつとつらくあつとつとつらくあつとつとつらく
あつとつとつらくあつとつとつらくあつとつとつらく
あつとつとつらくあつとつとつらくあつとつとつらく

遠州頌流生花記

一陽齋芳祇先生著 中本二冊

御年中書状あし 文海堂書

四季の書状を記ししるす
あつとつとつらくあつとつとつらくあつとつとつらく

書札獨枕あし 古 岩田夫山先生書

あつとつとつらくあつとつとつらくあつとつとつらく
あつとつとつらくあつとつとつらくあつとつとつらく
あつとつとつらくあつとつとつらくあつとつとつらく

色紙形詩款

同筆 墨帖一本 ちしほえ 同筆 大本一冊

南畝あし 草言

け書ハ蜀山先生教十の序のなかより抽出ししるす
あつとつとつらくあつとつとつらくあつとつとつらく
あつとつとつらくあつとつとつらくあつとつとつらく

下紅萬紫

初編 二編

蜀山先生あし 和文和詩和歌をめぐりしるす

北齋漫画初編

北齋の漫画は、古今東西の人物、動物、植物、風景などを、簡潔な線で描き、その神態や動作を巧みに表現した。初編には、多くの名作が収録されている。

同 二編

二編には、北齋の代表作である「猿蓑」や「狐」などが収録されている。また、北齋の弟子や後継者の作品も含まれている。

同 三編

三編には、北齋の「猿蓑」の続編や、他の動物画が収録されている。

同 四編

四編には、北齋の「猿蓑」の続編や、他の動物画が収録されている。

同 五編

五編には、北齋の「猿蓑」の続編や、他の動物画が収録されている。

同 六編

六編には、北齋の「猿蓑」の続編や、他の動物画が収録されている。

同 七編

七編には、北齋の「猿蓑」の続編や、他の動物画が収録されている。

同 八編

八編には、北齋の「猿蓑」の続編や、他の動物画が収録されている。

同 九編

九編には、北齋の「猿蓑」の続編や、他の動物画が収録されている。

同 十編

十編には、北齋の「猿蓑」の続編や、他の動物画が収録されている。

北齋漫画の全編は、北齋の天才的な筆力と、その独特な表現方法によって、後世に大きな影響を与えた。この全編は、北齋の漫画の全貌を把握するのに役立つ。

略画早指南初編
戴斗先生画

此書は口〇乃ニッをりて法の形を画く事始末と説く
るなりとされははあふりて業ハ画乃入る事あり

同二編早枕首古

此書は山天物の一山天始末文字を以形取るゆふ
りは後方ハ初巻もは法をいかり中を画るとも

同三編早枕首古

此編は初巻より後補ひ且そのかたよりふ一二三の合符と
ありて是を初巻とす

同四編早引編前

此書は画本いろは引よきたえハいの初巻抄師石工の初
巻より初巻と初巻分ちて書か人抄と初巻と

同五編早引編後

此編は初巻より初巻と初巻分ちて書か人抄と初巻と
ありて是を初巻とす

三體画譜

真行草の筆意取らるる人抄山月集本會殿出魚
小のりよりくあま後く是中にははせり

商人鑑近列

市中商家四射のいとも取らるる太平の恩沢を
あらしむ教へんとすねと一抄と抄取り

戴斗画譜近列

先生七才より五十有四年画及独学の骨骨と
ありて画師の一抄とすとりて是を初巻とす

五婦百人女玉章

北齋画
女用入
今川入

美代百人探文庫

同画
光琳画譜
大本
二冊

ECO-PULP

雅言集覽

六樹園著

初編三冊出来 二編四冊出

此書の初編は漢の初編... 和名抄... 抄撰字鏡... 痛む... 日記... 口...

通俗排悶録

六樹園譯

和らげ法入

十冊

孝行 忠義 貞烈 友愛 琦行 明断 美俠 玩世 仙縁 靈異... け書... たり小児...

源注餘滴

同著

全二十卷

源氏物語の... 源氏物語の... 源氏物語の... 源氏物語の... 源氏物語の...

和文やこりてぬ

同著

前編一冊出来 後編一冊近刻

東の市町の... 東の市町の... 東の市町の... 東の市町の... 東の市町の...

御成敗式目獨替古

全二冊

寒燈小栗外傳

北小枝繁作齋前中後十六冊画

飛彈匠物語

飯盛作北齋画

六冊

春宵奇談東嫩錦

作右同画五冊

新編水滸画傳

馬琴作画人同

十一冊

春宵夜話玉乃落穂

右同前十冊

忠孝潮来府志

馬琴作画人同

標注その雪

馬琴作画人同

假名手本後日文草

作右同五冊

雜書年代記大成

一枚摺

画本葛飾文庫

前北齋戴斗孝文筆

今流終の傳人の画と一一流をあらわす

画本外傳前北齋戴斗孝筆

鳳眼畫巻の筆まふあはれとせしめしめ

文化十五戌寅年

孟春

東都書肆

麴町平川町三丁目

角丸屋甚助

同 徳三郎